

迫る3回目なお不安

新型コロナウイルス対策の切り札されたワクチン、二回接種は十一月中にほぼ終了する予想だった。一日百万回どころが毎令が掛かる中、事業の中心を担う自治体、予約混戻や供給不足、豪農様の疑惑といった「壁」を乗り越え、前例のない国際プロジェクトを何とか実現へ導いた。たゞ、来月から始まる三回接種で再び混乱が起きないか、懸念も残る。

●モニター

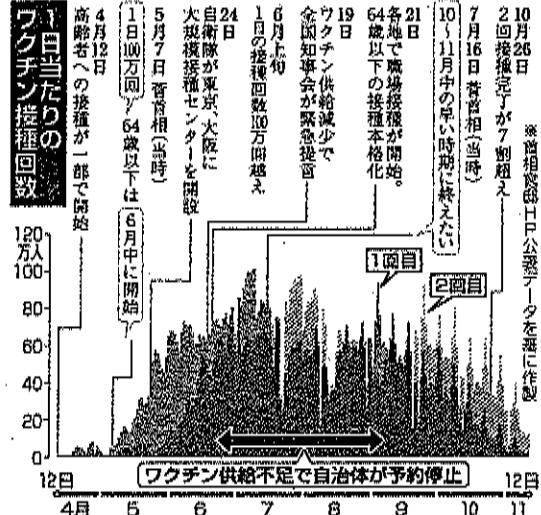
2回接種完了 自治体の9割

最初の大差は接種予約だった。インターネット、電話、窓口の三つを経ての予約でシステムがパンク。約十万人に一斉に接種券を配り、申し込みが殺到した。接種券の郵送時期を分散した自治体でも「コールセンターは何度電話してもつながらない」といった事態が相次った。

そんな中、注目を集めめたのが福島県相馬市だ。あらかじめ住民の意向を調べ、



※各相馬市HP上公認データを基に作成



ワクチン不足・医療協力・急な方針転換

当初政府は重症化リスクの高い高齢者や基礎疾患のある人を優先したが、途中からスピードアップを狙つて方針転換。自治体単位での対象者を六十四歳以下に広げ、企業や大学単位での実施も容認し、自衛隊による大規模接種センターでの接種会場として提供。施設を活用した北海道旭川市の担当者は「イオング会場は予約が埋まるのが早い、現役世代の接種も後押しした」と振り返る。

千葉県船橋市では、一日十万人超が利用するJR船橋駅から徒歩数分の場所に会場を設置。運動、通学する人向けに週日夜六時まで会場を開けて接種回数まで約二万回は新規予約を停止。「供給不足がなければもうと早く割に遅れていただろう」。予約停止は

ワクチンデマ見聞きした5割超

公益財団法人「新聞通信調査会」は13日、全国の18歳以上を対象にしたメディアに関する世論調査の結果を公表した。新型コロナウイルスワクチンに關し、不確かな情報やデマと思われる情報を「見聞きしたことがある」と答えた人が55.5%に上った。

コロナに関する情報で役に立ったものを複数回答で尋ねたところ、民放テレビが64.0%と最も多く、NHKテレビ49.5%、ヤフーなどのポータルサイト31.4%が続いた。新聞は地方紙が23.7%、全国紙が23.1%だった。

ワクチンの不確かな情報に触れた人が正しい情報を確認した方法（複数回答）は、テレビ報道が48.3%で最多。会員制交流サイト（SNS）32.2%、専門家のインターネット掲示板27.5%、政府の発表25.2%、家族や友人23.9%の順で、新聞報道は19.7%だった。接種するかどうかを決める際に参考にしたものでもテレビ報道がトップの50.5%で、新聞は24.5

メディア世論調査

%だった。

各メディアの信頼度を100点満点で評価してもらったところ、NHKテレビが69.0点でトップに。前回トップだった新聞は67.7点で、民放テレビ61.3点、ラジオ55.4点と続いた。調査は2008年から毎年実施。8月27日～9月14日、住民基本台帳から抽出した5000人を対象に行い、3047人から回答を得た。

米国	4699万1337 (76万2521)
インド	3442万6036 (46万3245)
ブラジル	2193万9196 (61万0491)
英国	953万4544 (14万3116)
ロシア	888万1306 (24万9415)
インドネシア	425万0157 (14万3628)
タイ	201万1331 (1万9989)
韓国	39万3042 (3063)
オーストラリア	18万8494 (1877)
中国	11万0629 (4649)
世界全体会	2億5262万2710 (509万1474)